

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

現在の日本における、性や妊娠などに関する男女の意識がいかなるものかを、さまざまな側面から分析することを目的としている。

2 調査項目

- (1) 日常生活や考え方について
- (2) 男女の関係性について
- (3) 性の意識や知識について
- (4) 対象者自身の性行動について
- (5) 初めてのセックス（性交渉）について
- (6) 現在の避妊の状況について
- (7) 予期しない妊娠の防止について

3 調査対象

- (1) 母集団：満16歳～49歳の男女個人
- (2) 標本数：3,000人
- (3) 抽出方法：層化二段無作為抽出法

4 調査期間

平成20年9月11日（木）～9月28日（日）

5 調査方法

調査員による訪問留置訪問回収法

6 調査実施機関

社団法人 新情報センター

7 回収結果

(1) 有効回収数 (率) 1,468人 (48.9%)

(2) 調査不能数 (率) 1,532人 (51.1%)

—不能内訳—

転居 173 (5.8%)

長期不在 46 (1.5%)

一時不在 337 (11.2%)

住居不明 69 (2.3%)

拒否 788 (26.3%)

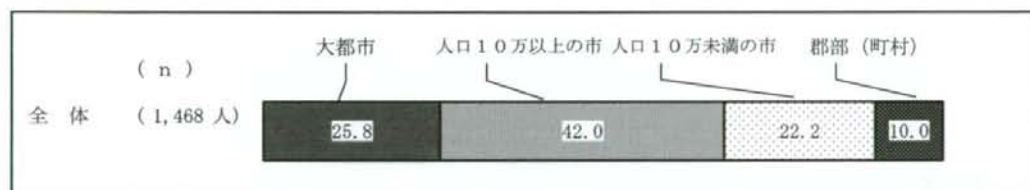
その他 119 (4.0%)

(3) 有効回答率 調査不能数のうち転居、長期不在、住居不明によって調査票を手渡すことができなかったものを除く2,712人のうち有効回答数1,468人 (54.1%)

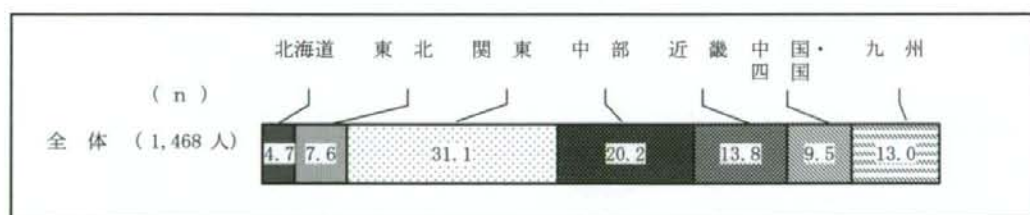
8 回答者の属性

(1) 都市規模・ブロック

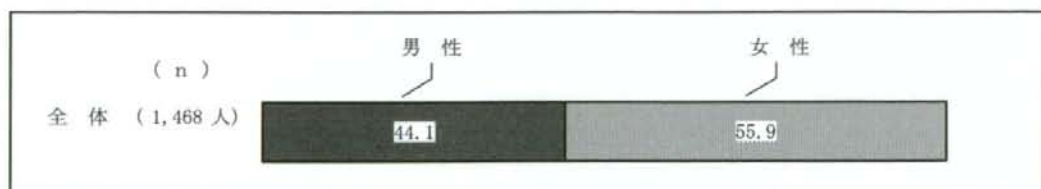
●都市規模



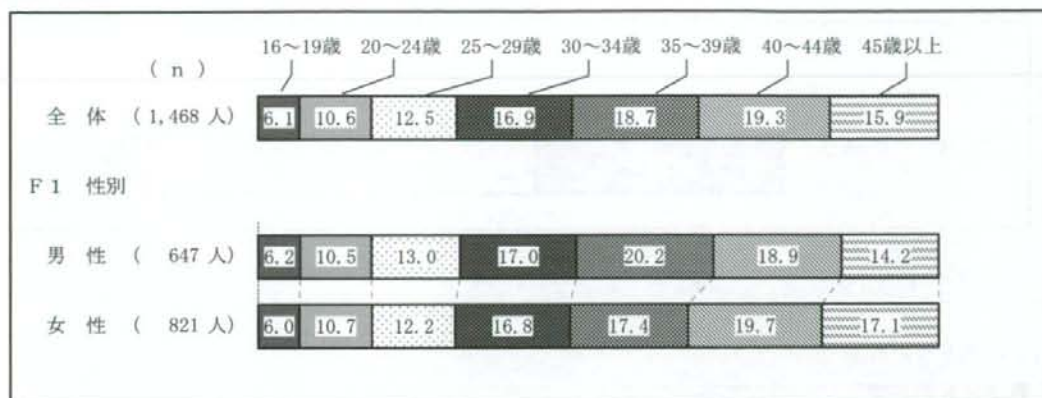
●地域ブロック



(2) 性別

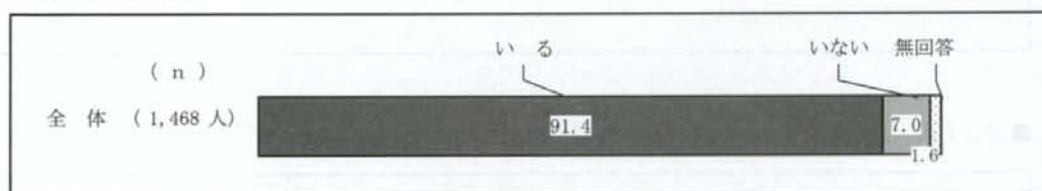


(3) 年齢

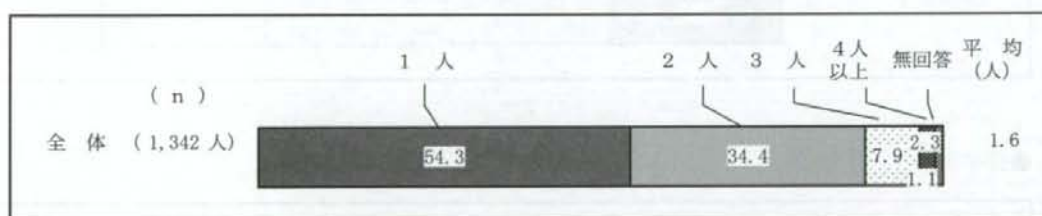


(4) 兄弟姉妹の有無と人数

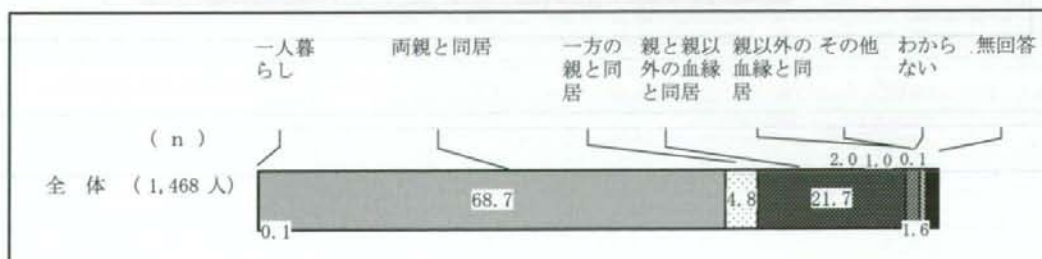
●兄弟姉妹の有無



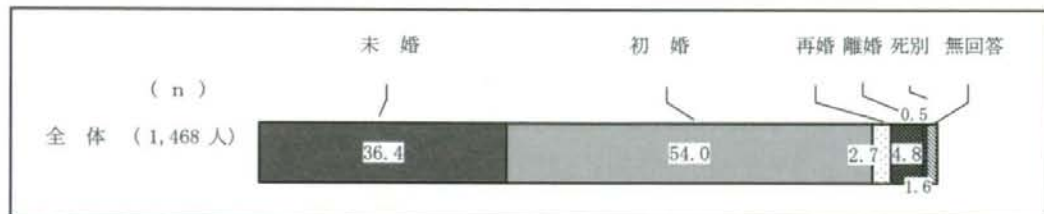
●兄弟姉妹の人数



(5) 中学生時代の家族形態

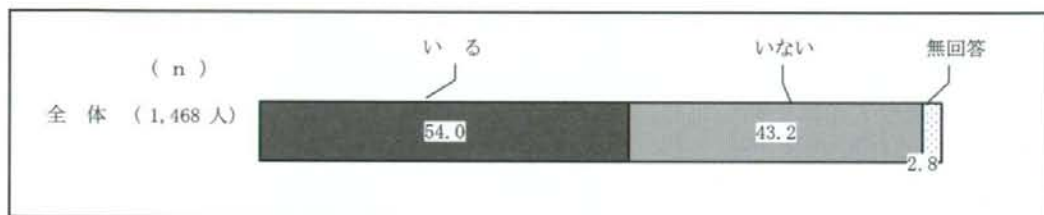


(6) 未既婚

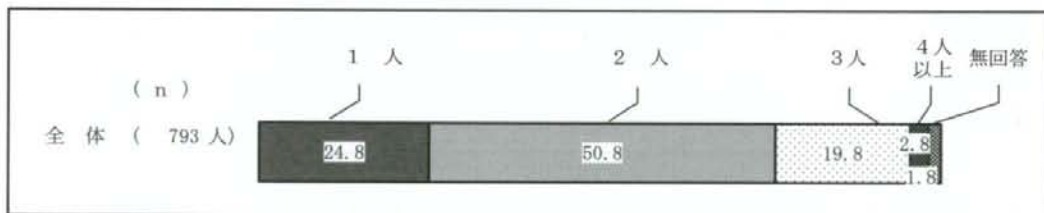


(7) 子どもの有無

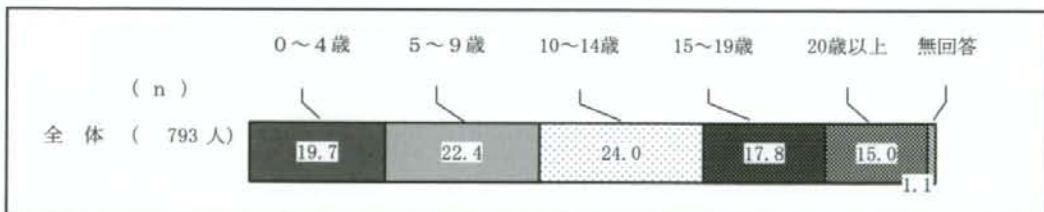
●子どもの有無



●子どもの人数

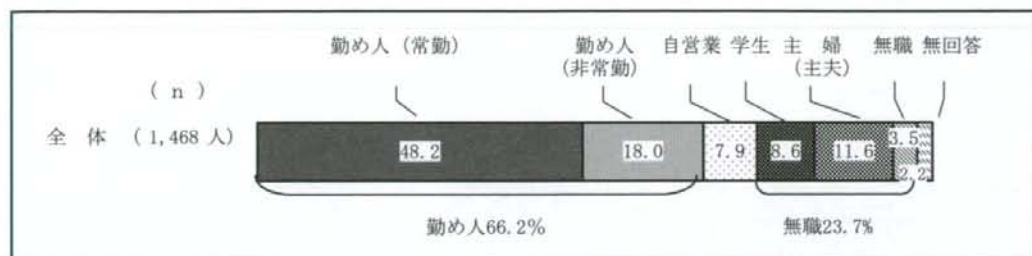


●長子年齢

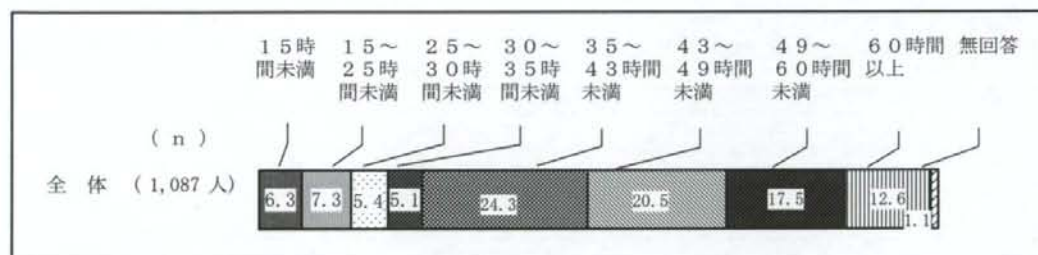


(8) 職業

●職業



●一週間の平均労働時間



9 この報告書を読む際の注意

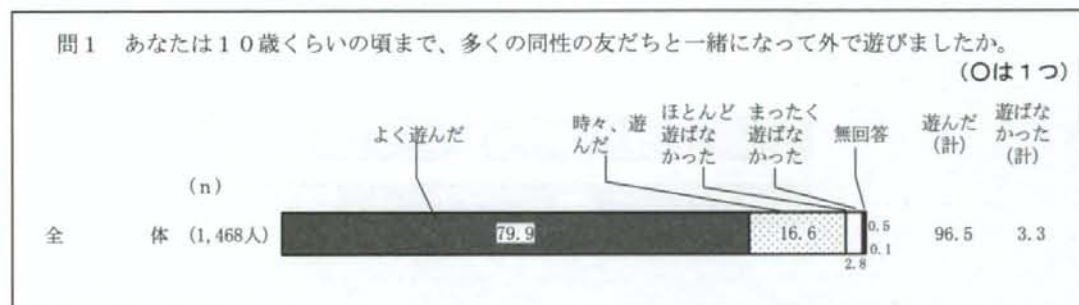
- (1) 図表中のnとは、比率算出の基数を表すもので、原則として回答者総数(1,468人)または分類別の回答者数のことである。
- (2) 百分比は、小数点第2位で四捨五入して、小数点第1位までを表示した。四捨五入したため、合計値が100%を前後することがある。
- (3) 「(○は2つまで)」「(○はいくつでも)」と表示のある質問は、2つ以上の複数回答を認めているため、回答計は100%を超える。
- (4) 図表中「—」は、回答者が皆無であることを、「0.0」は0.05未満の数値であったことを示す。
- (5) 「Ⅱ 調査結果の概要」では、分類別の回答者数が50人より少ない場合は傾向をみるにとどめ、分類別の分析の対象からは外している。

II 調査結果の概要

Ⅱ 調査結果の概要

第1章 これまでの日常生活や考え方

1 10歳くらいの頃までの同性の友人との関わり

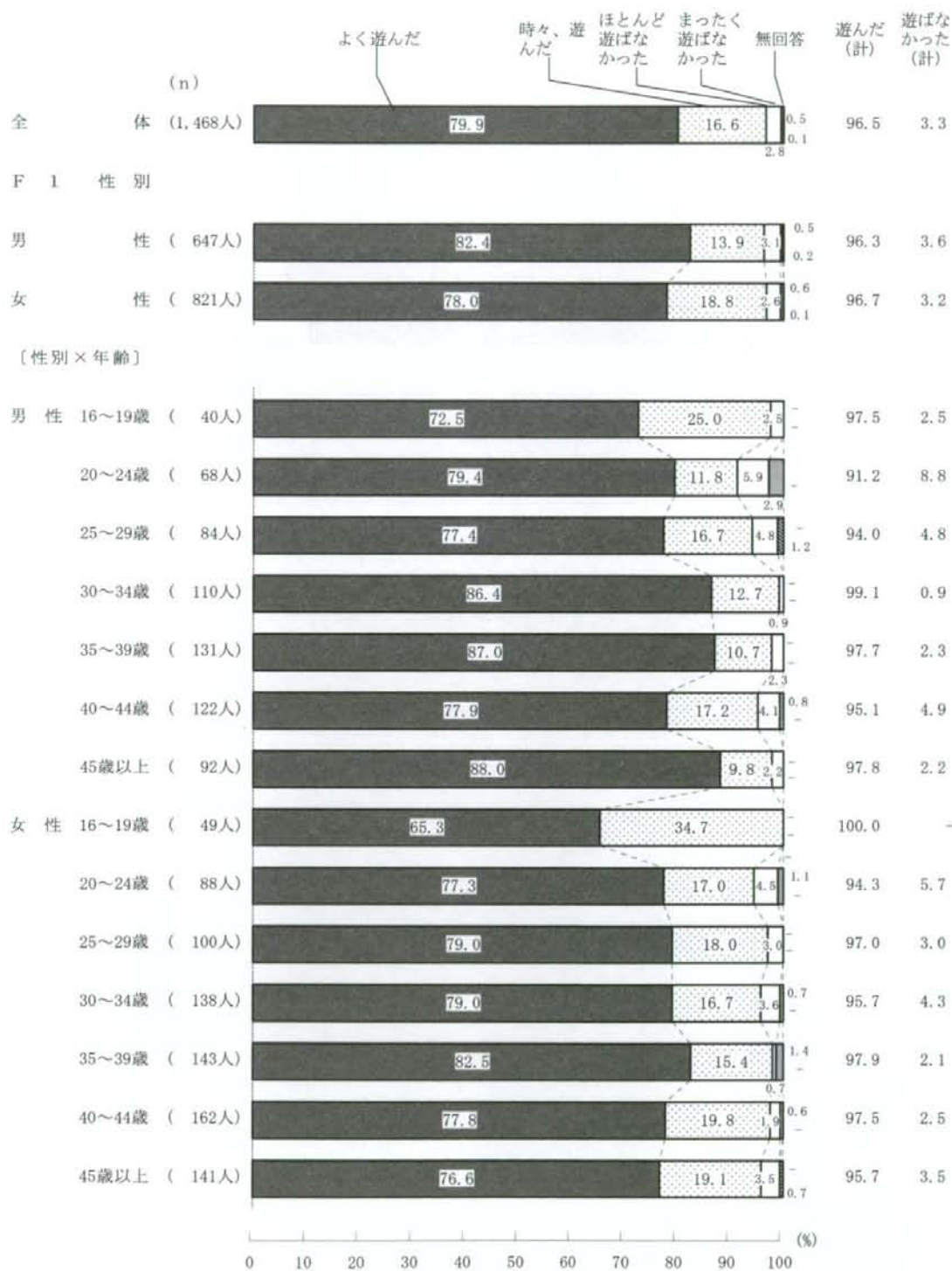


10歳くらいの頃まで、多くの同性の友だちと一緒に外で「よく遊んだ」(79.9%)という者は8割で、「時々、遊んだ」(16.6%)という者を合わせると、ほとんどの者が同性の友人と『遊んだ』(96.5%)と答えている。

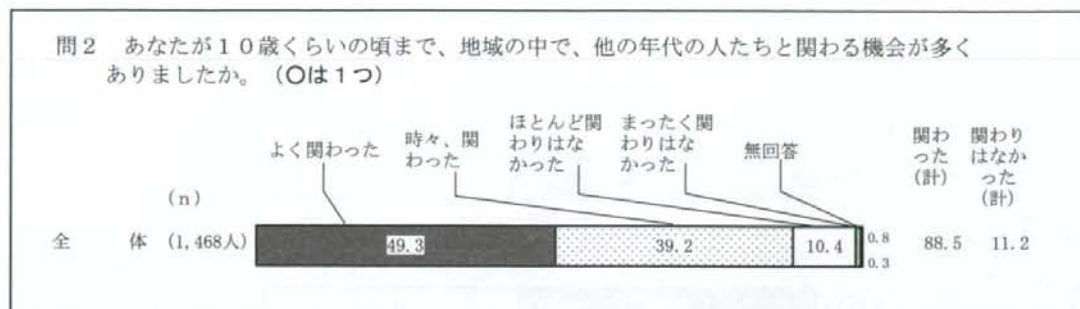
性別にみると(図1-1-1)、「よく遊んだ」は男性(82.4%)がやや多い。

性・年齢別にみると(図1-1-1)、男性の30歳代と45歳以上の9割近くが「よく遊んだ」と答えている。

図1-1-1 10歳くらいの頃までの同性の友人との関わり（性別、性・年齢別）



2 10歳くらいの頃までの他の年代の人たちとの関わり



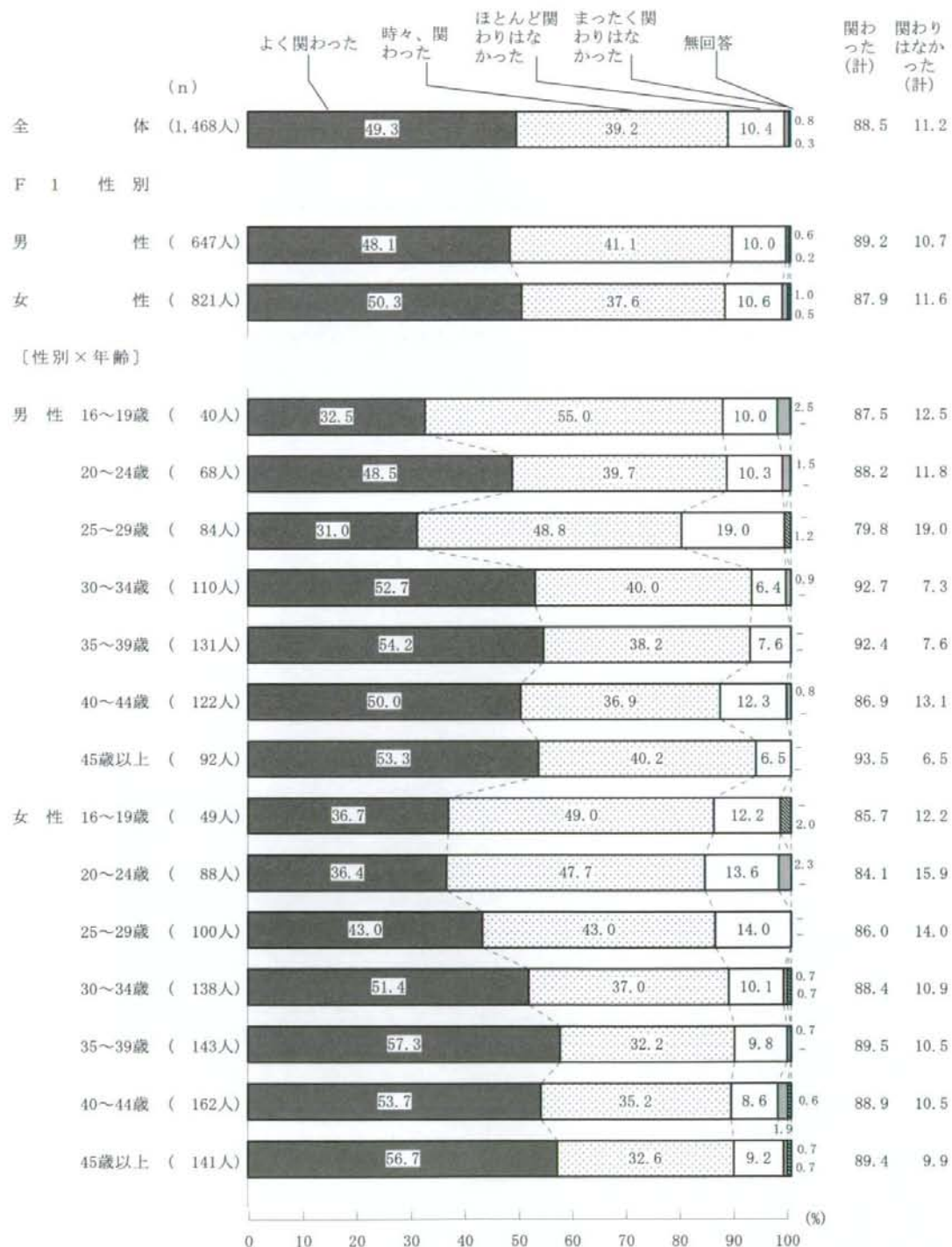
10歳くらいの頃まで、地域の中で、他の年代の人たちと「よく関わった」(49.3%)という者は約半数おり、「時々、関わった」(39.2%)という者を合わせると9割近くが、他の年代の人と『関わった』(88.5%)と答えている。

一方、「ほとんど関わりはなかった」(10.4%)という者は1割、「まったく関わりはなかった」(0.8%)という者はほとんどいない。

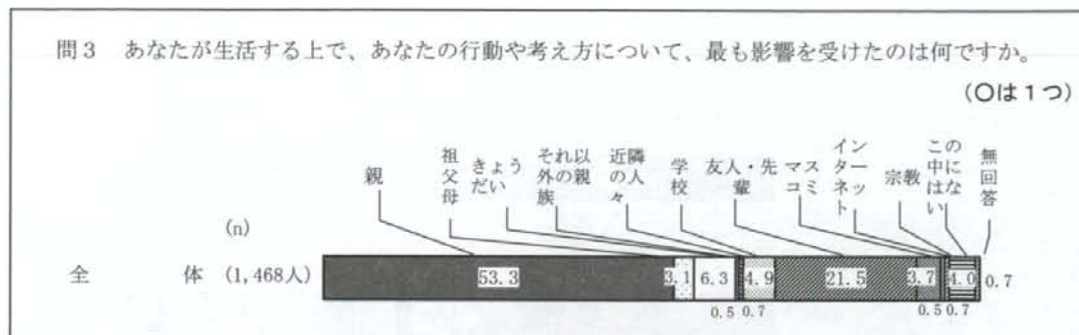
性別にみると(図1-2-1)、大きな差はみられない。

性・年齢別にみると(図1-2-1)、男女とも30歳代以上で、「よく関わった」という者が5割を超えている。特に、女性の35~39歳(57.3%)では6割に近い。

図1-2-1 10歳くらい以下の年代の人たちとの関わり（性別、性・年齢別）



3 行動や考え方で最も影響を受けた人等

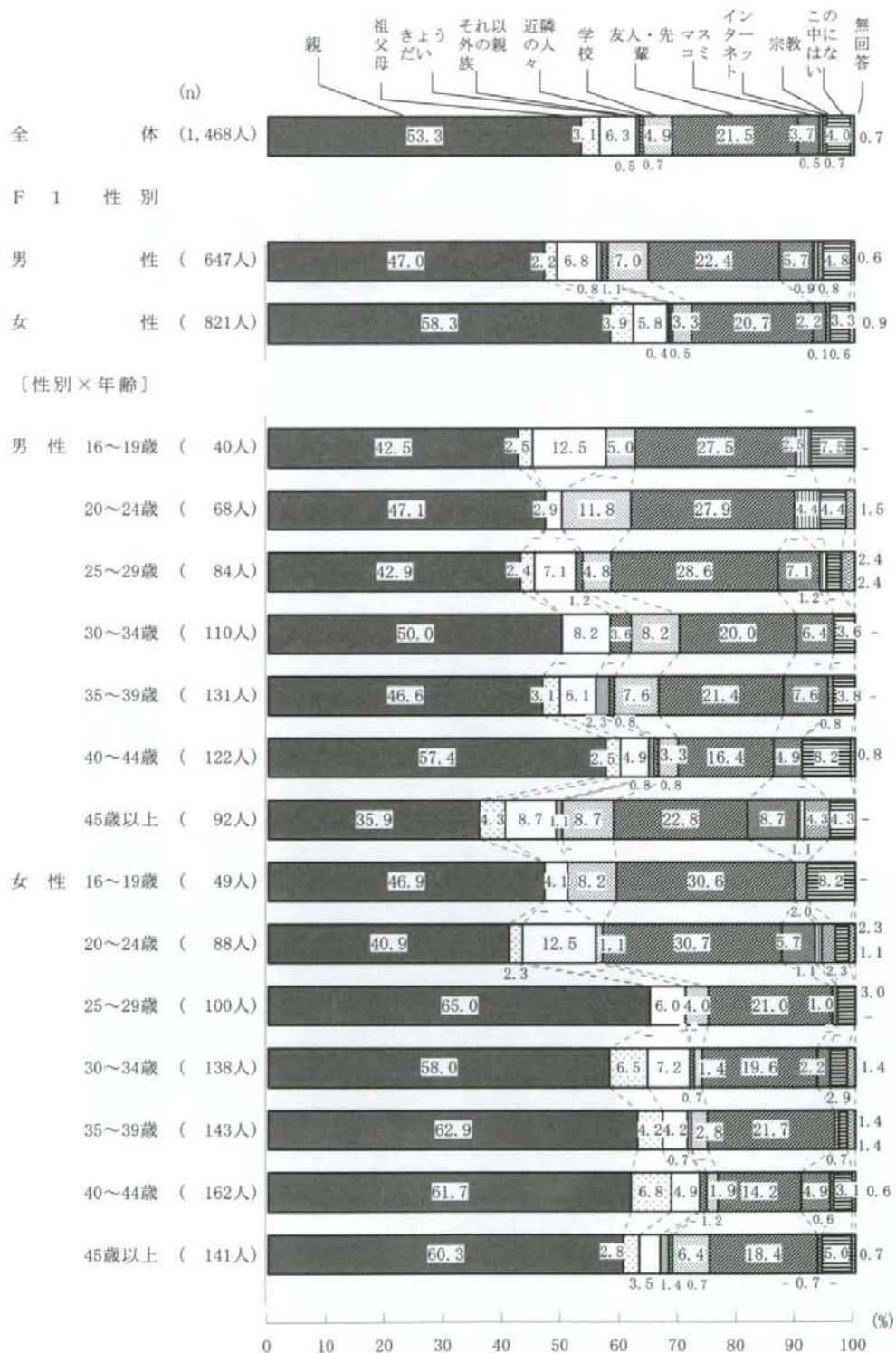


生活する上で行動や考え方について最も影響を受けたのは「親」と答えた者が 53.3%で最も多く、次いで「友人・先輩」と答えた者が 21.5%となっている。他の選択肢はいずれも少ない。

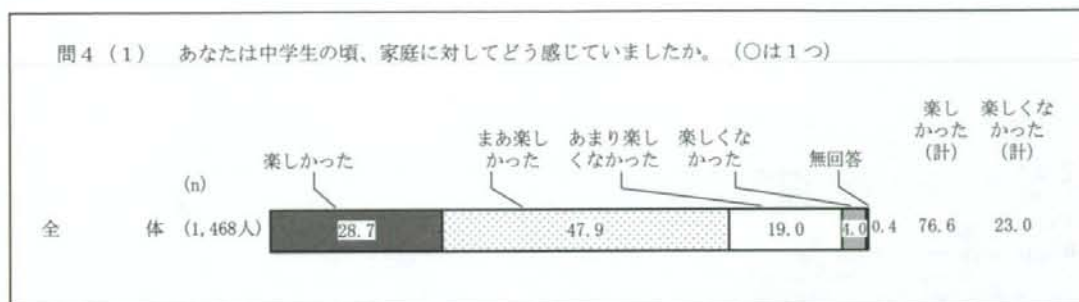
性別にみると(図1-3-1)、「親」という者は男性(47.0%)より女性(58.3%)で多くなっている。

性・年齢別にみると(図1-3-1)、「親」という者は女性の25歳以上の年齢層で6割前後を占め、多くなっている。「友人・先輩」という者は男女とも若年層で多くなっている。

図1-3-1 行動や考え方で最も影響を受けた人等（性別、性・年齢別）



4 中学校の頃の家庭に対する意識

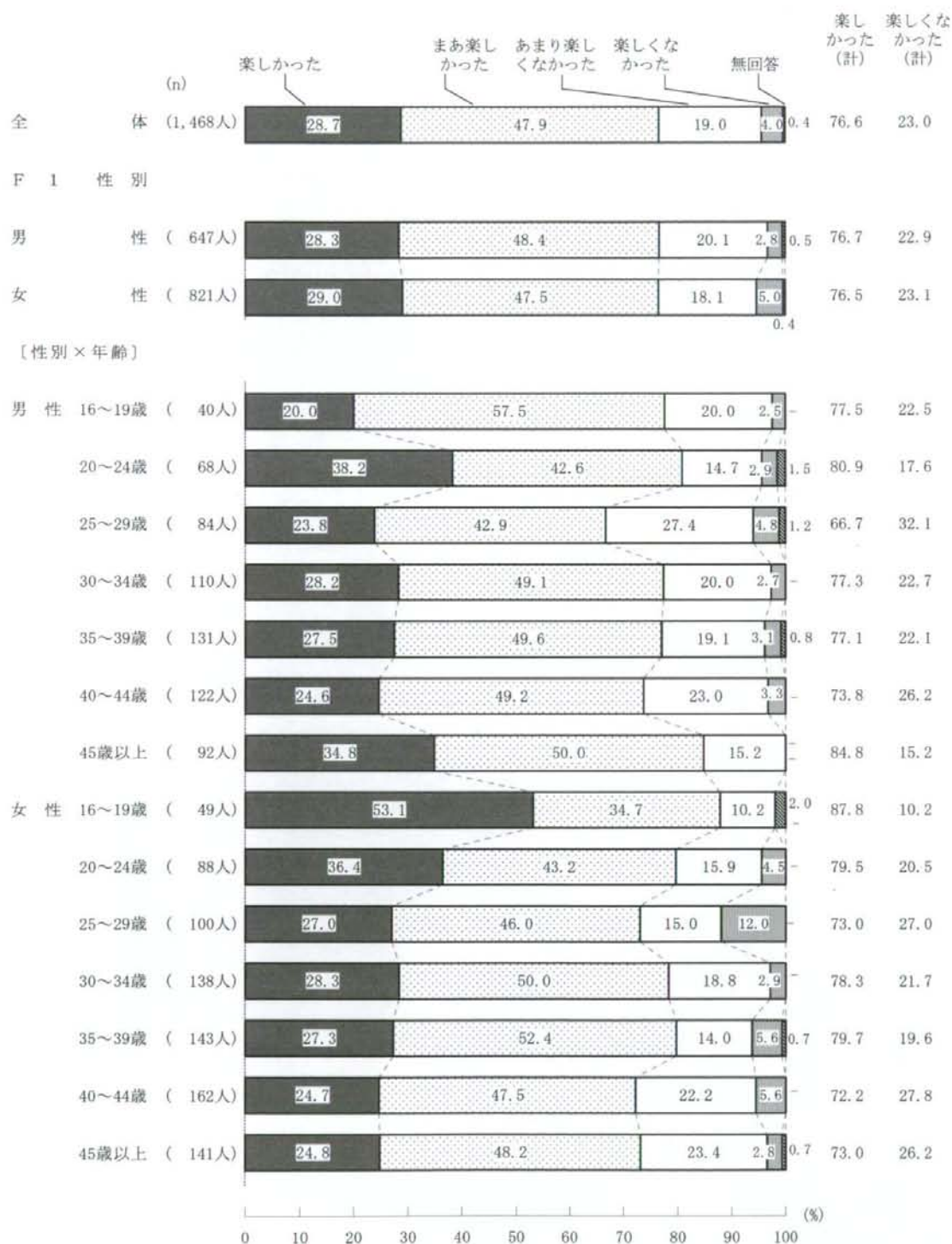


中学校の頃家庭に対してどのように感じていたかについて、「楽しかった」という者は 28.7%で、「まあ楽しかった」(47.9%)という者を合わせると、4人に3人が『楽しかった』(76.6%)と答えている。一方、「あまり楽しなかった」(19.0%)と「楽しくなかった」(4.0%)を合わせた『楽しくなかった』という者は 23.0%である。

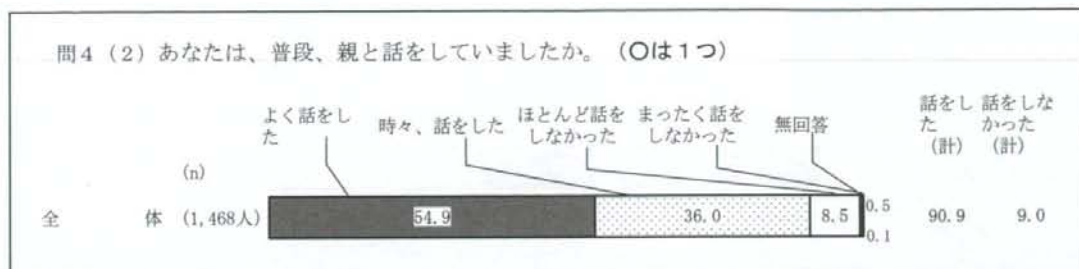
性別にみると(図1-4-1)、大きな差はみられない。

性・年齢別にみると(図1-4-1)、該当数は少ないが女性の16~19歳で「楽しかった」(53.1%)という者が多くなっている。

図1-4-1 中学校の頃の家庭に対する意識（性別、性・年齢別）



5 中学生の頃の親との会話



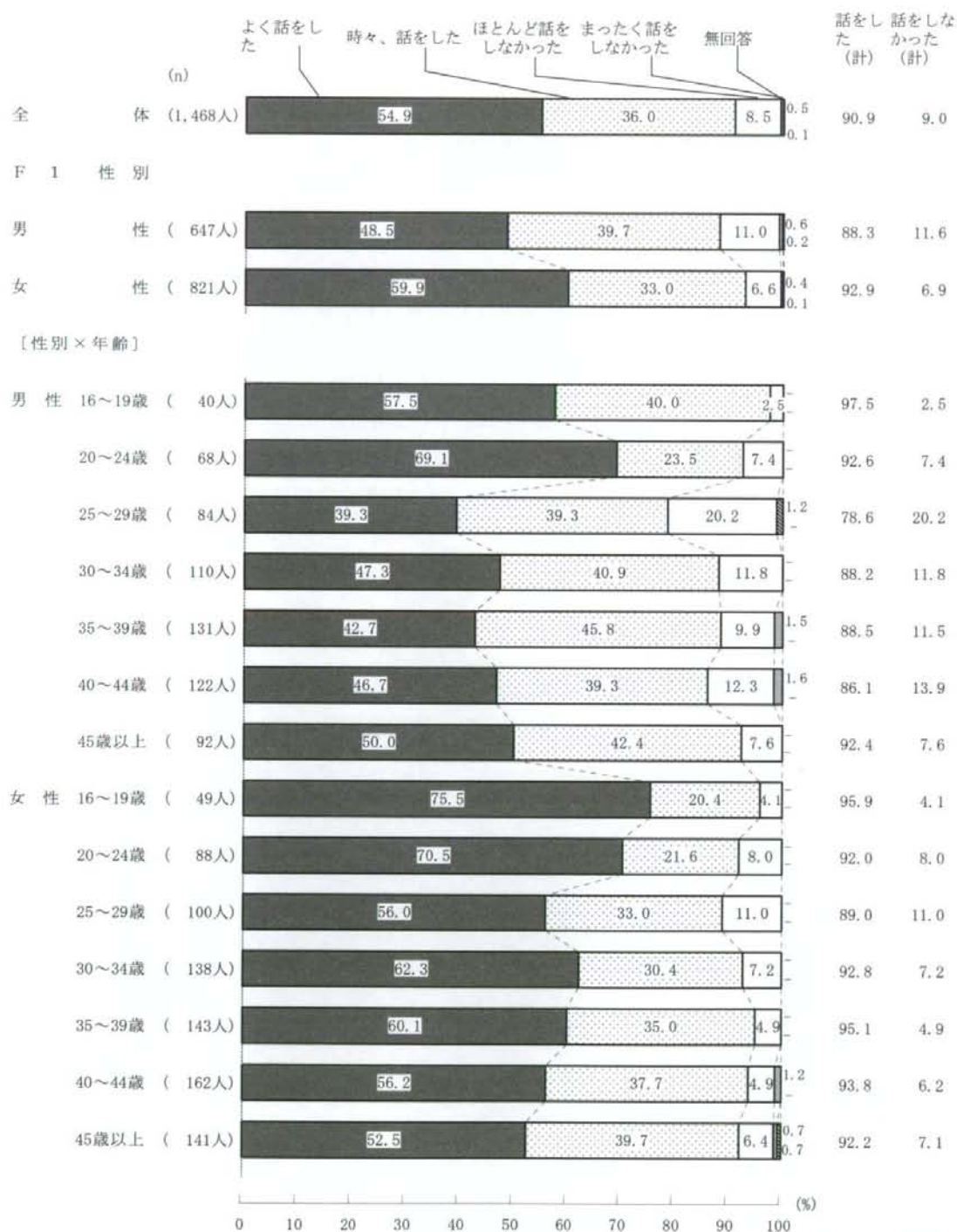
中学校の頃、普段親と話をしたかについては、「よく話をした」という者は54.9%、「時々、話をした」(36.0%)という者を合わせると、9割が『話をした』(90.9%)と答えている。

一方、「ほとんど話をしなかった」(8.5%)という者は1割弱、「まったく話をしなかった」(0.5%)という者はほとんどいない。

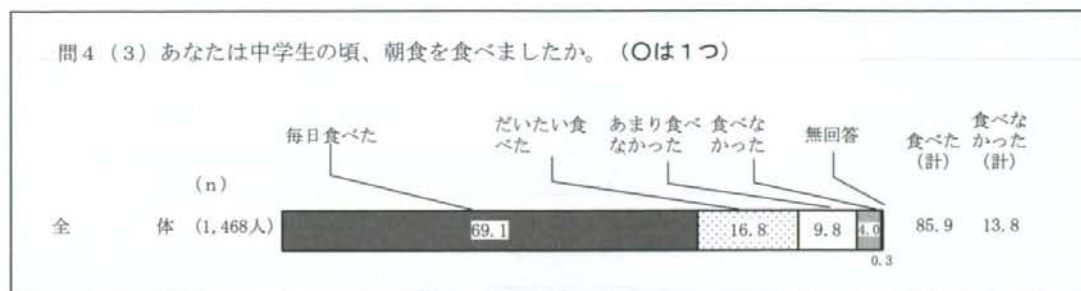
性別にみると(図1-5-1)、「よく話をした」という者は男性(48.5%)より女性(59.9%)に多く、女性の6割が中学生の頃親と「よく話をした」と答えている。「よく話をした」と「時々話をした」を合わせた『話をした』も男性(88.3%)より女性(92.9%)でやや多くなっている。

性・年齢別にみると(図1-5-1)、該当数は少ないが女性の16~24歳の年齢層で「よく話をした」という者が多くなっている。一方、『話をしなかった』という者は男性の25~29歳(20.2%)が多い。

図1-5-1 中学生の頃の親との会話（性別、性・年齢別）



6 中学生の頃の朝食の習慣



中学校の頃の朝食の習慣については、約7割が「毎日食べた」(69.1%)と答えている。「だいたい食べた」(16.8%)を合わせた『食べた』という者は85.9%となっている。

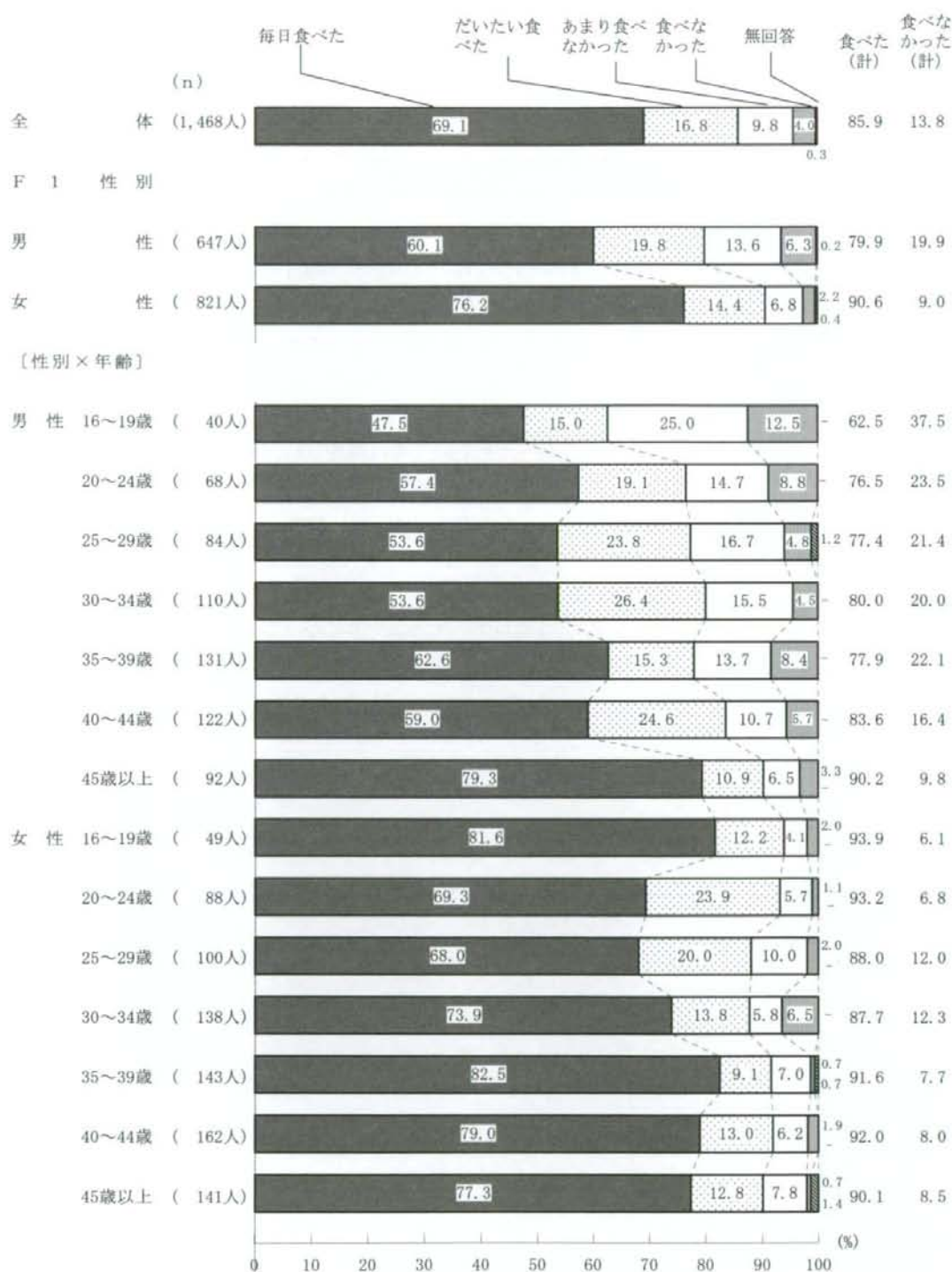
一方、「あまり食べなかった」(9.8%)と「食べなかった」(4.0%)を合わせた『食べなかった』者は13.8%となっている。

性別にみると(図1-6-1)、「毎日食べた」という者は男性(60.1%)より女性(76.2%)に多く、女性では4分の3が「毎日食べた」と答えている。「毎日食べた」と「だいたい食べた」を合わせた『食べた』と答えた者も男性(79.9%)より女性(90.6%)で多く、女性の9割を占めている。

性・年齢別にみると(図1-6-1)、男性の45歳以上と女性の35歳以上の年齢層で「毎日食べた」という者が8割前後で多くなっている。

一方、『食べなかった』という者は男性の39歳以下の年齢層で多くなっている。

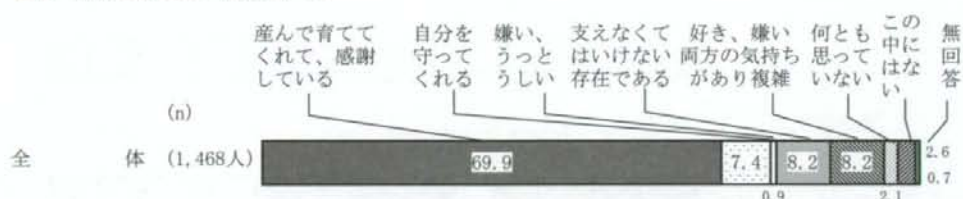
図1-6-1 中学生の頃の朝食の習慣 (性別、性・年齢別)



7 母親に対する気持ち

問5 あなたは親をどのように思っていますか。母親と父親について、それぞれ最も近いものを選んでください。

(1) 母親に対して (○は1つ)



母親に対する気持ちについては、7割が「産んで育てて、育ててくれて、感謝している」(69.9%)と答えている。「支えなくてはいけない存在である」(8.2%)、「好き、嫌い両方の気持ちがあり複雑」(8.2%)、「自分を守ってくれる」(7.4%)と答えた者はいずれも1割弱、「何とも思っていない」(2.1%)と「嫌い、うっとうしい」(0.9%)、「この中にはない」(2.6%)はわずかである。

性別にみると(図1-7-1)、大きな差はみられない。

性・年齢別にみると(図1-7-1)、「産んで育てて、育ててくれて、感謝している」という者は女性の30歳代の年齢層では約8割を占めている。「好き、嫌い両方の気持ちがあり複雑」と答えた者は女性の20~24歳(17.0%)で、「支えなくてはいけない存在である」と「自分を守ってくれる」と答えた者は女性の45歳以上(順に12.8%、13.5%)で、それぞれ多くなっている。